

米軍基地関係特別委員会記録  
<第1号>

平成29年第3回沖縄県議会（6月定例会）閉会中

平成29年8月10日（木曜日）

沖 縄 県 議 会

## 米軍基地関係特別委員会記録<第1号>

### 開会の日時

年月日 平成29年8月10日 木曜日  
開 会 午前10時1分  
散 会 午後0時3分

### 場 所

第4委員会室

### 議 題

- 1 軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立  
(豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故について)
- 2 軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立  
(豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故に関する意見書及び同抗議決議について (追加議題))

### 出 席 委 員

委 員 長	仲宗根	悟 君
副 委 員 長	親 川	敬 君
委 員	山 川 典 二	君
委 員	花 城 大 輔	君
委 員	末 松 文 信	君
委 員	照 屋 守 之	君
委 員	宮 城 一 郎	君
委 員	照 屋 大 河	君

委員 新垣清涼君  
委員 渡久地修君  
委員 嘉陽宗儀君  
委員 當間盛夫君

委員外議員 なし

---

### 欠席委員

金城勉君

---

### 説明のため出席した者の職・氏名

知事公室長 謝花喜一郎君  
基地対策統括監 池田竹州君  
参事兼基地対策課長 金城典和君

---

○仲宗根悟委員長 ただいまから、米軍基地関係特別委員会を開会いたします。  
本委員会付議事件軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立に係る豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故についてを議題といたします。

本日の説明員として、知事公室長の出席を求めています。

豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故について審査を行います。

ただいまの議題について、知事公室長の説明を求めます。

謝花喜一郎知事公室長。

○謝花喜一郎知事公室長 ただいま議題となっております、豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故について御説明いたします。

8月5日、日本時間の午後4時ごろ、オーストラリア東海岸沖において普天間飛行場所属のMV22オスプレイが訓練中に墜落事故を起こしました。

オスプレイについては、昨年12月にも名護市の沖合で墜落事故を起こし、こ

としに入ってから6月に伊江島補助飛行場及び奄美空港で緊急着陸を行うなど、県民に大きな不安を与えております。

日常的にオスプレイが飛び交う本県において、今回の事故は県民に大きな衝撃を与え、大変遺憾であります。

県としては、オスプレイの配備に反対であり、国外であったとはいえ、県民が配備に強く反対してきたオスプレイがこのような事故を起こしたことを重要視しております。8月7日には、外務省特命全権大使及び沖縄防衛局長に、翌8月8日には、第3海兵遠征軍司令官に対し、今回の事故原因の究明がなされるまでMV22オスプレイの飛行を中止するとともに、事故原因の早急な公表、なお一層の安全管理の徹底等に万全を期することを強く要請するとともに、抗議したところです。

以上で説明を終わります。

御審査のほど、よろしくお願いいたします。

**○仲宗根悟委員長** 知事公室長の説明は終わりました。

これより、豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故について質疑を行います。

なお、質疑・答弁に当たっては、挙手により委員長の許可を得てから行い、重複することがないように簡潔にお願いいたします。

質疑はありませんか。

照屋大河委員。

**○照屋大河委員** オスプレイについては、開発段階から事故を繰り返し、欠陥機だと認識しているのですが、県において開発段階の事故の状況は把握されていますか。

**○金城典和参事兼基地対策課長** オスプレイについては、試作や生産初期の段階において1991年6月、1992年7月、2000年4月及び12月の4回墜落事故を起こし、30人以上が死亡しており、さらに2010年4月、アフガニスタンで着陸事故により死傷者を出しております。また、平成24年4月にモロッコで2名が死亡、2名が重傷を負う墜落事故が発生しており、6月にはフロリダ州で5名が負傷する墜落事故が起きております。平成25年8月には米国ネバダ州で、平成26年10月にはペルシャ湾で事故が起きている状況にあります。さらに、平成27年5月には米国ハワイ州でハードランディングして2名が死亡しております。重大事故については以上です。

○照屋大河委員 そのような実態があって、県内に配備が示された際に県内41市町村全てで配備反対の決議が行われたのではないかと考えるのですが、この状況についてはいかがでしょうか。

○謝花喜一郎知事公室長 私どももそのように認識しております。41市町村で配備反対を決議し、東京においても行動を行ったと認識しております。

○照屋大河委員 強行配備されて、昨年12月に名護市で墜落事故が起き、その後、伊江島あるいは奄美大島で緊急着陸という実態があるということですが、どういう状態だったのか、もう少し説明をいただけますか。

○謝花喜一郎知事公室長 オスプレイの昨年12月の墜落事故、そして、伊江島補助飛行場、奄美空港への緊急着陸がございました。これについて、県は米軍及び沖縄防衛局に対して原因の究明を求めてきたところです。昨年12月の墜落事故について、現時点で事故原因の報告はなされておられません。

○照屋大河委員 その中で今回の事故です。事故の連絡については、県にどのような形であったのか、もう一度お願いします。

○池田竹州基地対策統括監 当日の午後8時40分ごろ、沖縄防衛局の企画部長から私に事故の発生が伝えられました。あわせて、米側から富川副知事と連絡をとりたいという連絡がございました。その後、同日の午後9時5分ごろ、ニコルソン中將から富川副知事にオーストラリアの東側でMV22オスプレイが墜落し、乗員26名中23名が救助され、残りの3名が行方不明となっているとの連絡がございました。

○照屋大河委員 午後9時5分に連絡を受けた以降、県の対応はどのようなものが行われたのでしょうか。

○謝花喜一郎知事公室長 我々は、事故原因の詳細な情報を沖縄防衛局等に問い合わせているわけですが、沖縄防衛局もその時点でニコルソン中將から富川副知事に報告した以上のものではないということで、翌日午前9時30分に沖縄県庁に私を含め知事公室基地対策課の職員が集まり、事故の状況と今後の対応策等について議論、検討を行ったところでございます。

○照屋大河委員 ニコルソン中將が県庁に来たということによろしいですか。

○池田竹州基地対策統括監 8月5日の第一報は、ニコルソン中將から富川副知事に電話での連絡でございました。

○照屋大河委員 その後、直接面談があったのではないですか。その対応については、翌日の会議後、県として決めたということですか。

○謝花喜一郎知事公室長 6日は日曜日ですが、午前9時30分に職員が集まり、沖縄防衛局とも連絡のやりとり等を行いました。その中で、7日に外務省特命全権大使、沖縄防衛局長に来ていただいて説明を受けるとともに、県からも抗議要請を行うという方針を決めたところでございます。米側に対しては、日曜日でなかなか連絡がとれないので、7日に日程調整を行い、8日に富川副知事からニコルソン中將に抗議要請を行ったということでございます。

○照屋大河委員 事故が発生して、6日に小野寺防衛大臣が米側に自粛を要請したという報道があります。この点について、県に対してそういうことを求めていくという連絡や協議はあったのでしょうか。

○池田竹州基地対策統括監 8月6日、日曜日に県で調整をし、沖縄防衛局と電話でやりとりをしていたときに、防衛省として飛行自粛を求めるという連絡はございました。

○照屋大河委員 その後、結果的には普天間飛行場からオスプレイが飛行したということが現実ですが、その点について県はどのような見解をお持ちでしょうか。

○謝花喜一郎知事公室長 県が原因究明と再発防止策がなされるまで飛行中止を求め、そして、小野寺防衛大臣からも自粛を求めています。その時点では無視するような形で飛行が再開され、怒りを禁じ得ないということで一沖縄防衛局長及び外務省特命全権大使に県庁に来ていただいたのは7日の午後1時です。ただ、その前の午前10時40分ごろに飛行が再開されたということで、要請文には特に入れていなかったのですが、富川副知事から口頭で飛行再開について強く抗議をしたところですよ。8日のニコルソン中將への抗議要請については、

飛行再開が明白になりましたので、抗議文の中にも飛行中止や怒りを禁じ得ないという文言を入れて強く抗議をしたところでございます。

○**照屋大河委員** 社民党県連としても、この件について8月8日に沖縄防衛局に直接抗議を行いました。自粛を求めたのは国の強い姿勢だと見られがちですが、実態としては、6日の防衛省から米軍に対する自粛要請は事務的レベルだったと。翌日、飛んだ後に在日米軍のトップが防衛大臣のところに来て、運用上の必要があって飛ばせましたということで、遺憾の意を示したというのが実態だったということです。ですから、当初の政府の自粛要請の本気度も問われないといけないと強く抗議をしたのですが、県としても今回の自粛要請一県の立場も含めて、国に対しては強く求めていく必要があると思うのですが、この点についてはいかがでしょうか。

○**謝花喜一郎知事公室長** 自粛要請ということではなく、原因究明と再発防止策が示されるまでは飛行中止すべきであるというのが県のスタンスでございます。

○**仲宗根悟委員長** ほかに質疑はありませんか。  
照屋守之委員。

○**照屋守之委員** 前回、名護市の事故でも原因究明されるまではとめてほしいと抗議しましたが、結局、それもなされなくて非常に憤りを感じたのですが、今回もこのような形で事故が起こって、訓練が再開されているという状況です。我々は何度もこのような経験をしていますので、なぜあえて米軍は、乗員が犠牲をこうむって、あれだけ機体が破損をしている中で訓練を再開するのかという一根本的に、今、世界で何が起こって、何がそうさせているのかということも把握しながら対応していかないと、同じようなことで抗議をして再発防止を申し入れるだけでは、私は難しいと思っています。県は何がそうさせているのかということ把握していますか。

○**謝花喜一郎知事公室長** 昨日、ニコルソン中将が司令官声明を出しております。その際に、原因を特定するために事故の全面的な調査を開始したこと、部隊の安全手順を確認するため48時間の運用停止を実施したこと、航空部門の上級幹部のもと関係者の証言を収集し、機体の整備記録及び搭乗員の訓練記録を確認し、事故につながった全ての事実関係を慎重に分析し、部隊の司令官が部

隊に所属する隊員と面会し、飛行基準及び安全手順を遵守することの重要性を改めて強調したということで、これらの措置をとった結果、事実関係及び事故につながった経緯に関する初期段階の評価を行った上で、第31海兵遠征部隊(MEU)一ミューは、オスプレイの飛行が安全であると判断し、運用を再開しているということです。危険かつ飛行の準備ができていない航空機を飛ばし、搭乗員及び地元住民を危険に陥れることは決してしないことでミューの司令官と意見が一致している。我々にとって飛行継続は軽い決断ではなかったと。続けて、米国の海兵隊及び海軍は地域全体の平和及び安全を確保する任務に専念しなければならない云々ということを行っています。委員の御指摘はそういった部分も含めてのことではないかと思いますが、おおよそ、そういった趣旨のものが昨日のニコルソン中将の司令官声明でも出ております。

**○照屋守之委員** 県は、3年前からワシントン事務所を設置して、基地問題の解決も含めて取り組みをしております。知事は、こういうことが起こったときの国の対応を非常に厳しく批判していますよね。起こるべくして起こったということを平気で言っているのだから本来はワシントン事務所を通して、今の米軍のありようや、世界の状況にどのような形でアメリカが対応するという情報収集を行うべきですよ。それはどうなっていますか。

**○謝花喜一郎知事公室長** こういった事件・事故が起こった際、例えば、嘉手納飛行場における旧海軍駐機場の使用、外来機の使用、パラシュート降下訓練といったものについては、米国向けに情報を発信しているところです。ワシントン事務所においては、米国政府関係者との意見交換の中で嘉手納飛行場等の状況について説明を行っているということです。今回のMV22オスプレイの事故に関しては、沖縄県内の動き等も含めて県からワシントン事務所に連絡をし、沖縄県の実情をしっかりと伝えていきたいと考えております。

**○照屋守之委員** そういうことではないのです。こういう事件・事故が起こったときに、今までのように米軍や日本政府任せではどうしようもないから、自分たちもいろいろなことを調査、提言しながら行うということを県は進めているわけですよ。今の翁長県政では、一步踏み込んでワシントン事務所を設置したのです。こういうトラブルが起こる前に一知事は起こるべくして起こったと言っているのです。そうであれば、常日ごろからいろいろな情報収集を行って、アメリカはこのように考えていると。機種についてはこうだという情報交換をして、それをさらに知事が、皆さんのこれはとんでもない話だという形で、直

接こういうことをして未然に防ぐ。トラブルが起こってからこんなことをしても間に合わないのです。常設しているワシントン事務所を通して、今、アメリカがどういう形で考えているのか、あるいは北朝鮮も含めて一今の大統領と北朝鮮のトップの発言を見ると恐ろしいです。こういう事故が起こって、乗員を犠牲にしてでも、機体を犠牲にしてでも、繰り返し訓練をせざるを得ない何かがあるのではないかと。そういうところを根本的に突き詰めていかないと一トラブルが起こって抗議をしました。改善はしません。不満だけでずっと来たわけでしょう。それではだめだということでワシントン事務所を設置して、毎年1億円かけて、トータルで3億円ぐらいかけているわけです。ですから、そのような情報収集をし、アメリカ側が何を考えているのかということも確認する。県は日本政府では当てにならないと言っているわけですから、県が直接アメリカとやりとりするということではないのですか。なぜ、そういう機能を持たせないのですか。

**○謝花喜一郎知事公室長** ワシントン事務所は、基地問題に関する最新情報と沖縄の状況を正確に米側等に発信するという目的で設置しております。当然、米側の実情等も情報収集しております。委員からの御指摘は、例えば、昨今の北朝鮮の状況等を踏まえて云々ということだと思いますが、そういった情報は、随時、ワシントン事務所からいろいろな面会等を通したのものとして出てまいります。ただ、県としてはオスプレイの配備反対を考えているわけですが、それに即、結びつくかということ、そういったことではないということです。

**○照屋守之委員** 皆様方が認識するワシントン事務所と、我々県議会もそうですが、県民の期待はそうではないのです。トラブルを防ぐ、辺野古の問題を解決する、普天間飛行場の返還というような期待があるのです。ただ情報収集だけして何の意味があるのですか。普段からアメリカ政府や軍の考え方、取り組みなど、さまざまな情報をとって、こういうことなので直接こういうところをつついたらいいというようなことをして、事件・事故を未然に防ぐ機能があるからワシントン事務所を設置する意味があるのであって、その辺の情報収集だけ、こちらの意向だけ伝えるということであれば、何もお金をかけて置く必要はありません。ですから、我々がこれまでやってきたことの憤りも含めて、県はワシントン事務所を設置して、みずから直接交渉を行うために設置したという、県民はそういう意識ですから、こういうトラブルがあったときにそうではないと言われても、今までに何回トラブルが起こっているのですか。

それから、知事はこの事故が起こったときに日本政府には当事者能力がない、

国民を守る気概があるのかと相当批判しております。我々もそういう気持ちは当然ありますが、県がそういう形で事務所を構えていて、能力を発揮しない、機能を発揮できていないという実態は、県知事として当事者意識がどうなのかということになりませんか。県民側からするとそうなります。

**○謝花喜一郎知事公室長** ワシントン事務所の設置目的は、情報収集、沖縄の正確な状況を情報発信するということでございます。事務所については全ての事件・事故の防止のための設置だということで、それは委員のお考えとして受けとめますが、基本的には正確な情報の発信と先方の情報の収集ということで設置したということでございます。沖縄県民の思いを正確にワシントン事務所を通して米側に発信するということをもって、間接的にはあるかもしれませんが、基地負担の軽減に少しでも寄与できればと考えているところでございます。

**○照屋守之委員** 情報収集程度では県民は納得しません。そうであれば事務所は設置しなくていいのです。そこに所長をおいて、毎年1億円というお金をかけるわけでしょう。当然、沖縄で発生している米軍関係の事件・事故や基地の整理・縮小などに対して、ワシントン事務所を拠点にしていろいろな情報をとって、それを県に伝えて、具体的に形として実績をつくっていくからワシントン事務所はいいわけでしょう。今のように情報収集程度で、毎年1億円をかけてこれとは関係ありませんと言われたら、我々県議会もそうですが、県民は何と言いますか。そこを言っているのです。本当に情報収集程度でワシントン事務所を置くのですか。

**○謝花喜一郎知事公室長** ワシントン事務所の設置の目的は基地問題に関する情報収集、沖縄の正確な状況などの情報発信を主な役割としているということは、設置の段階から常に県として説明をしているところでございます。

**○照屋守之委員** それから、知事は起こるべくして起きたと言っていますよね。県知事は予言者ですか。県知事は県の代表として県民の命や財産を守る総責任者で、こういう事故が起こるべくして起こったと言いますか。もし本当にそういうことであれば、なぜあなたは県知事として事故が起こらないように対応しないのですかということが県民の声ではないですか。どういう意識レベルなのか。

○謝花喜一郎知事公室長 県としましては、先ほどの答弁でもありましたように、オスプレイについては試作の段階から墜落等の事故が発生していたということで、41市町村を挙げてオスプレイの配備反対を申し入れしていたということだと思います。そういった経緯等も踏まえて起こるべくして起きたという発言になったのではないかと考えております。

○照屋守之委員 日本政府は当事者能力がないと批判するのは、それはそれで否定はしませんが、起こるべくして起きたという知事の発言は、県民からするとまさに当事者意識がありません。トラブルが起こるとわかりながら、県知事は今までずっと放置してきたということになりませんか。非常に残念だと。これは絶対にあってはならないということぐらい言わないと—私はこの報道に触れて、国や米軍の対応も県民からすると理解しがたい状況ですが、県知事の対応についても、こういうことを言っている間は問題は解決しないだろうし、本当に情けなくなります。県知事が起こるべくして起きたと言いますか。おかしくないですか。

○謝花喜一郎知事公室長 先ほどもお答えいたしましたように、オスプレイの試作段階からの事故等を踏まえて、県を挙げて、ある意味総ぐるみと言ってもいいほどの思いで配備反対をしてきました。ところが、そういった思いに反して配備されてきたと。そういった中で、昨年事故や緊急着陸等が相次いでいるといったことをいろいろ考えたときに、私は知事のお気持ちを推察することはなかなかできませんが、残念だという思いも含めて起こるべくして起きたという言葉が出たのではないかと考えております。

○照屋守之委員 知事が非常に厳しい事故について憤りを持っているのは、当然、県知事としてあるべきだと思いますが、起こるべくして起こるということであれば、県民の命・財産を守るために県知事として起こらないように手だてを講じるのが県知事の仕事であって、そういうものをないがしろにして、結局、起きた問題に対して相手だけを批判するというやり方はとんでもないと考えています。同時に、知事はいろいろな面でそういうことを言っているのです。「戦う民意」の中で、もしも普天間基地周辺にオスプレイが落ちたらどうなるか。日米安保は一遍に吹き飛びますと、自分が書いた本の中でそういうことを言っているのです。その問題をみずから解決しようとしなくて、こういうトラブルが起こったら問題は解決するという話でしょう。さらに最悪なのは、もしもB52が嘉手納基地に墜落したら、あるいは沖縄国際大学にもう一回ヘリが墜落し

たら、辺野古問題は一気に解決するでしょうと。当事者意識どころか、そういう事故が起これば基地問題は解決するかのようことを自分の著書の中で堂々と言うわけです。なおかつ、起こるべくして起こったと言う。これはまさに、国も批判してください。米国も批判してください。我々県民は県知事も非難せざるを得ません。これに当事者意識がありますか。事故が起こったら、さもそういう問題が解決するかのようにおかしくないですか。日ごろからこういう意識だから、当事者意識に欠いて起こるべくして起こったということを平気で言えるわけでしょう。これで問題を未然に防いで、当事者として基地問題の解決に対応できますか。

○謝花喜一郎知事公室長 県はオスプレイ配備については反対であり、オスプレイの事故等が起こるたびに配備反対については明確に意思を表明しているところでございます。そういった中でオスプレイが居座り続け、訓練等が強行されているという実情を県としても決して看過できないわけでございます。ですから、県はこれからもオスプレイの配備反対については明確に思惟を発していきたいと考えております。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。  
渡久地修委員。

○渡久地修委員 今回の墜落事故は、その後、死亡者が出たということですが、もう一度、この事故の大まかな概要と何名死亡しているのか教えてください。

○謝花喜一郎知事公室長 8月5日午後4時ごろ、オーストラリア東海岸沖で普天間飛行場所属のMV22オスプレイが訓練中に墜落事故を起こし、搭乗員26名中23名は救出されたが、3名の死亡が確認されたと。海兵隊によると、墜落場所は、オーストラリアクイーンズランド州におけるショールウォーター米訓練場の沖合、約18海里—約33キロメートルの地点とのことで、事故を起こしたMV22オスプレイは、第31海兵機動展開部隊265海兵テイルローター飛行隊に所属しているとのことであります。防衛省によると、事故を起こした機体はドック型輸送揚陸艦グリーン・ベイに着艦しようとした際にデッキに衝突し、その後、海中に落下したということでございます。

○渡久地修委員 3名死亡したということですが、オスプレイの開発段階からの死者は合計何名になりますか。

○金城典和参事兼基地対策課長 今、わかるだけの数字で申し上げますと、1991年から2000年4月までの墜落事故で約30人以上が死亡しています。さらに、平成24年4月のモロッコでの墜落事故で2名、平成27年5月の米国ハワイ州でのハードランディングで2名という数字は把握しております。合計しますと、こちらで知り得る数字としては34名がお亡くなりになったこととなります。

○渡久地修委員 オスプレイの事故でこれだけの人が死んでいます。これは大変な数字ではないかと思うのですが、どのような認識ですか。

○謝花喜一郎知事公室長 とうとい人命が亡くなられたと思います。県の数字で35名、負傷者を入れると39名、行方不明者を入れるとさらにふえて24名という数になります。この数はそういった観点から大変残念な数字だと考えております。

○渡久地修委員 死亡者の数を正確に把握してほしい。私の手元の数字では44名になっているのですが、後で調べて報告してください。

今回のオーストラリアでの事故は決して人ごとではないですよ。普天間飛行場所属ということが発表されていますが、事実ですか。

○謝花喜一郎知事公室長 事実でございます。

○渡久地修委員 普天間飛行場には、いつから今までに何機配備されていますか。

○金城典和参事兼基地対策課長 平成24年10月6日に12機が配備されております。その後、平成25年9月25日までに残り12機が配備され、合計24機が配備されております。

○渡久地修委員 沖縄に配備された24機中、これまで何機が墜落して、何機が事故を起こしていますか。

○金城典和参事兼基地対策課長 平成24年10月にオスプレイが普天間飛行場に配備されて以降、県が把握しているオスプレイ関連の事故は、部品落下事故が2件、飲料用ボトル落下事故が1件、計器異常が1件、予防着陸を含め緊急着

陸が2件、胴体着陸が1件、墜落が1件の計8件となっております。

○渡久地修委員 今回のものを入れるとどうなりますか。

○金城典和参事兼基地対策課長 墜落が2件になり、合計9件になります。

○渡久地修委員 24機中2件が墜落したと。これは何%の比率になりますか。これでも安全と言えますか。

○金城典和参事兼基地対策課長 24機中2件ということであれば、8.3%になります。

○渡久地修委員 24機中2機が既に墜落した—これは我々がずっと指摘してきている欠陥機そのものだと思います。これが沖縄の上空を飛び交っていると、恐怖で仕方がないと思います。その辺はどう思いますか。

○謝花喜一郎知事公室長 今回のオーストラリアでの墜落事故は、日常的にオスプレイが飛び交っているわけですので、国外とはいえ、大変衝撃を受けております。今回の事故の原因について、機体に問題があったのかどうかについては、米側からも沖縄防衛局からも正式な情報提供はございません。ですから、これが人為的なミスによるものか—昨年12月のものについては最終的な詳細な情報はございませんので、この点について欠陥機云々という趣旨の御質疑にはこの場で明確な回答は控えさせていただきたいと思っております。ただ、いずれにしましても24機中2機の墜落事故があったということは極めてゆゆしき問題だと考えております。

○渡久地修委員 沖縄に配備された24機中2機が墜落したのは事実なのです。沖縄に配備されて以降、海外を含めた事故でオスプレイはどれだけ落ちて、どれだけの方が亡くなっていますか。アメリカ本国を含めて事故が相次いでいるのですが、それについて説明してください。

○金城典和参事兼基地対策課長 県に配備されて以降、平成26年10月にペルシャ湾で1人が行方不明になられているということです。平成27年5月に米国ハワイ州でのハードランディングで2名……。

○渡久地修委員 死亡事故ではなく、事故がどれだけ起こっているかということです。

○金城典和参事兼基地対策課長 先ほどの2件以外に、平成27年12月にカリフォルニア州で着艦の際に1件事故を起こしております。平成28年10月にはメリーランド州で着陸に失敗し、破壊したということがあります。それから、平成28年12月に沖縄県名護市の東海岸で墜落。さらに、平成25年6月にノースカロライナ州で着陸の際、火災が発生し機体に損傷を受けています。平成25年8月にはネバダ州でハードランディングを起こしております。平成26年5月にノースカロライナ州で海兵隊員が転落しております。今回の事故も含めると、トータルで10件起こっております。

○渡久地修委員 沖縄に配備された24機中2機が墜落したと。そして、沖縄に配備以降、10件のオスプレイの事故が起こっているということで、大変危険なものだということをはっきりしています。今回、オーストラリアで墜落しているのですが、墜落したオスプレイは24機中一前に配備されたとき、隊長機は尾翼に赤い色が塗ってあると報道されていたのですが、今回墜落しているものの番号などは把握していますか。

○金城典和参事兼基地対策課長 米国からの発表によると、部隊の番号までは報告は受けておりますが、機体番号までの把握はしていない状況です。

○渡久地修委員 普天間飛行場所属のオスプレイが墜落したということですが、普天間飛行場所属のオスプレイは日常的に沖縄でどのような訓練をどこで行っていますか。

○謝花喜一郎知事公室長 主な訓練は北部訓練場における離発着の訓練、昨年12月には給油訓練等も行われたと。それから、伊江島補助飛行場における訓練で、一昨日には夜間訓練もなされたと認識しております。

○渡久地修委員 オスプレイは普天間飛行場を飛び立って、宜野座村城原区でつり下げ訓練も行っていますし、夜間訓練も行っています。それから、北部訓練場や伊江島補助飛行場に行く途中で県民の住宅上空も飛びますよね。そういう意味で、いつ落ちるかわからないという恐怖感があると思いますが、その辺はいかがですか。

○謝花喜一郎知事公室長 普天間飛行場周辺の地域住民だけではなく、本島北部や伊江島補助飛行場にもオスプレイの訓練場があり、洋上での訓練もあるということからすると、日常的に沖縄県民の頭上をオスプレイが飛び交っているという認識はございます。

○渡久地修委員 日常的に飛び交っているもののうちの1機が、今回、落ちたと理解していいですか。

○謝花喜一郎知事公室長 我々もそのように認識しております。

○渡久地修委員 ですから、これは決して人ごとではありません。海外で起こったことだということで見逃すわけには絶対にいかないということで、県は毅然とした対応をすべきだと思います。

先ほど富川副知事が抗議したという中で腑に落ちないところがあるのですが、原因究明までの飛行中止を求めたということですが、これまでの県の姿勢は配備撤回、反対ではなかったですか。原因究明までの中止は当然ですが、配備撤回まで求めるのが県の姿勢ではないですか。

○謝花喜一郎知事公室長 おっしゃるとおり、配備に反対であることは抗議文にも明確に入れております。ただ、今すぐ配備撤回ということが実現しないような状況において、まずは喫緊の課題として県民に大きな不安を与えているということから、原因究明と再発防止策が示されるまでの中止を求めたということでございます。決して配備撤回、反対の旗をおろしたということではございません。

○渡久地修委員 先ほど知事公室長は欠陥機ということはコメントを差し控えると言いましたが、これまで本会議でも欠陥機と指摘されているなどと皆さんは言っています。24機中2機も墜落して、沖縄に配備されて以降、何度も事故を起こしている欠陥機について明確に撤去せよ、配備撤回せよということをおっしゃらないと絶対にだめだと思います。政府が自粛を求めましたが、米軍は一向に聞く気配はないですよ。既に飛んでいますし、その辺は沖縄県民の命をないがしろにしているという点で私は憤りを禁じ得ないと思います。それは皆さんも知事も同じ考えだと思うのですが、米軍のやりたい放題は許せないと思いますが、いかがですか。

○謝花喜一郎知事公室長 その辺は翌日に飛行を再開したということも含めて、先ほど冒頭でも説明いたしましたが、急遽、抗議要請文の中にも強い怒りを禁じ得ないという文言を入れて抗議をしたということでございます。

○渡久地修委員 今回のオスプレイの墜落事故は決して看過できない問題で、日常的にいつ落ちるかわからないオスプレイが県民の頭上を飛んでいると。これがオーストラリア沖で落ちたということで、絶対に人ごとではないので、県は毅然としてやってほしいと思います。

8月13日は沖縄国際大学にヘリが落ちた日ですよ。もう絶対に宮森小学校での事故のようなことは起こさせないと。そのためにはオスプレイのような欠陥機は配備撤回せよと一先ほど、県知事として強く動けということが野党からもありましたが、もっと県民全体で、県議会としても配備撤回、こんな飛行機は県民の頭上を飛ぶなということで動く必要があると思うのですが、最後に知事公室長の見解をお聞かせください。

○謝花喜一郎知事公室長 沖縄県はこれまでも建白書の精神に基づいてオスプレイの配備には反対してきております。今後ともあらゆる機会を通じて、日米両政府に対してはオスプレイの配備撤回を求めてまいりたいと考えております。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。  
山川典二委員。

○山川典二委員 今、議論にもあったように、ニールソン中將に対して自粛を求めましたが、翌日には飛んでいますよね。なぜ飛んでいると思いますか。

○謝花喜一郎知事公室長 米側の立場からすると、運用上必要だと。また、一定程度、安全上も問題ないと認識したのかと推察しますが、県民の立場からすると、十分な説明がなされていない中で再開というのは到底容認できないという立場でございます。

○山川典二委員 翌日にはオスプレイが飛行しておりますが、その命令は誰が出したと認識していますか。

○謝花喜一郎知事公室長 現地の司令官の命令だと考えております。

○山川典二委員 現地の司令官とは誰ですか。

○謝花喜一郎知事公室長 この件についてはニコルソン中將が行ったと思っております。

○山川典二委員 海兵隊の運用を含めて、行動の最高意思決定機関は行政上どちらになりますか。

○金城典和参事兼基地対策課長 組織図で確認しておりますが、沖縄県内の海兵隊については、第3海兵遠征軍がキャンプ・コートニーにございますが、こちらが海兵隊のトップと考えております。その部隊が太平洋軍司令部に属していると理解しております。

○仲宗根悟委員長 休憩いたします。

(休憩中に、山川委員から質疑内容について補足説明があった。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

謝花喜一郎知事公室長。

○謝花喜一郎知事公室長 沖縄の海兵隊の上には在日米軍司令部がございます。さらに、その上には太平洋軍司令部がございます。そして、当然、米国の軍隊なので国防総省が全体としての指揮をとっていると考えております。

○山川典二委員 これだけの認識しかないのかと非常にびっくりしているのですが、基本的には国防総省の傘下に海軍省があって、その中に海兵隊が位置づけられております。そして、統合参謀本部が在沖米軍を含めて海外の最高の意思決定機関なのです。運用も含めて、そこが全て決定するのです。今回、ニコルソン中將の命令で翌日飛んだという話がありますが、本当にそうですか。最高意思決定機関、あるいは在日米軍総司令部である横田基地の決定なのか、ハワイのアジア本部の決定なのか、ワシントンの決定なのか。そういうことすらなぜ聞かないのですか。

○謝花喜一郎知事公室長 現地での意思決定は誰が行うかという趣旨の御質疑だと思ったので、先ほどの答弁をいたしました。当然、軍隊は個別に機動しているわけではありませぬので、最終的には国防総省の意思のもとに動いているものだと考えております。

○山川典二委員 先ほどニコルソン中将の命令で飛んでいるという話がありましたが、これは修正できますか。

○謝花喜一郎知事公室長 現地の判断だけでこの問題が解決できるものではないと私どもも考えておりますので、最終的には太平洋軍司令部なのかということもありますが、この問題の重要性を鑑みた場合、ワシントンでの判断も踏まえたものではないかと考えているところでございます。

○山川典二委員 副知事がわざわざニコルソン中将に抗議しているわけですから、なぜその部分を聞かなかったのですか。これは今後の北朝鮮の問題も含めて、アジアにおけるアメリカの軍事戦略の中で非常に重要な問題で、指揮命令系統がどのようになっているかというのは県としてしっかり把握すべきだと思います。そのように推測で言うのではなく、きちんと確認すべきではないですか。

○謝花喜一郎知事公室長 現地でのものは先ほど答弁したとおりだと思いますが、最終的な一訓練は、一定程度現地の司令官に委ねられていると我々は考えております。ただ、こういった国外で起こった事故、それがどういった原因によるものかということは、米軍の海兵隊は世界に配備されておりますので、統一的な見解が必要だと考えております。そういった中で、今般、48時間の運用停止云々というような話もございましたが、そういったことからすると相当高いレベルで議論が行われたものと思っております。

○山川典二委員 今、24機が沖縄に配備されております。12機ずつの2グループに分けて、それぞれ役割があると思います。海兵隊の役割としては人道支援等もありますので、1つは国内、もう一つはオーストラリアも含めて、韓国など南アジアの戦略的な訓練も含めた運用になっていると認識しておりますが、そういう情報はございますか。

○謝花喜一郎知事公室長 今回は第31海兵機動展開部隊の事故だということでは

すが、同部隊の訓練と現地での訓練を分けて展開していると認識しております。

○**山川典二委員** 嘉手納飛行場も含めて、いろいろな訓練がかなり増加しております。那覇空港の自衛隊のスクランブルも世界一と言われるぐらい、緊急発進の回数が異常にふえております。これは御存じのように北朝鮮を含めてのアジア情勢が絡んでいると思いますが、今のアメリカ軍の動きを見ていますと、有事即応体制の直前まで来ているのではないかと思うのですが、その辺の認識は県としていかがですか。

○**謝花喜一郎知事公室長** この件については、米側から一切コメントがいただけません。ですから、我々も新聞等で知り得る範囲でしか持っていない状況でございます。

○**山川典二委員** それはそうですが、ワシントン事務所もあるわけですから、なぜ幅広く多角的に情報収集しないのですか。これだけの米軍基地があっっているいろいろな問題が起こっている中で、マスコミ情報云々というレベルですか。もっと真剣に行うべきではないですか。

○**謝花喜一郎知事公室長** こういった背景について、我々は抗議等を行う際にいろいろお聞きするわけですが、現地レベルではお答えできませんという回答しかございません。

○**山川典二委員** 今、北朝鮮がグアムにミサイルを撃ち込むとおどしているわけです。それに対してアメリカのトランプ大統領もけしからんと言って、いつでも即応体制の状況にあります。なるべくそうならないように協議をするという方向に行くかもしれませんが、一触即発でわかりません。そういう中で、在日、あるいは在沖米軍基地の情報収集が余りにもなさ過ぎます。なぜもっと幅広くやらないのですか。かつては安全保障の担当セクションもあったではないですか。そういうものを再構築して、しっかりとやるべきではないですか。オスプレイにつきましては、今後、自衛隊に配備される予定もあるわけです。その辺の運用も含めて、残念なことに犠牲者も出ましたが、結果に基づいて、教訓として、今、真剣にやるべきではないですか。いつもこういう議論ばかり繰り返しています。いかがですか。

○**謝花喜一郎知事公室長** 例えば、嘉手納飛行場のパラシュート降下訓練や、

外来機のたび重なる飛行で旧海軍駐機場が使用されたといった背景を、私どもはその時点でもお聞きしております。ただ、先ほど来お答えしていますように、こういったことについてはコメントは一切できないと。あのときには北朝鮮のミサイル発射等が相当差し迫っているという状況でございました。そういった状況において確認してもお答えできないということです。私も何度か米軍の司令官とも意見交換等をしたのですが、彼らはこの辺のコメントは一切しないと。これは防衛省において、同じような我々事務方同士であっても、この辺はコメントできないということでございます。

**○山川典二委員** それは軍事機密なので当然です。しかし、その辺の動き、一つの流れは十分に見通せるわけなので、それにどのように県が対応するかということなのです。県知事はアメリカに何度か行っておりますが、国防総省一ペンタゴンで具体的に本腰を入れて議論をしたことはありますか。

**○金城典和参事兼基地対策課長** 知事が訪米する際に、ペンタゴンでそのような話をしたという記憶はありません。

**○山川典二委員** これだけの米軍基地を抱えて、過重負担だ、辺野古新基地建設反対だと言って、ある意味、公約の一丁目一番地の基地対策についてペンタゴンに一回も行っていないというのはどういうことですか。本気で解決するという認識がないのではないですか。

**○謝花喜一郎知事公室長** 世界情勢については、今の県政も日米安全保障体制を容認していますし、一定程度の配備が必要だということは理解しております。ただ、それが過重だということを中心に沖縄県はさまざまな要請等をアメリカ政府に対して行っているわけでございます。相手方の軍事上の必要性等について、情報収集することは一定程度必要だと我々も認識しておりますが、余りにも沖縄県の実情が過重だと。むしろ事件・事故が相次いでいるということに重点を置いて、今の県政は米側に要請を行っているということでございます。

**○山川典二委員** 確認ですが、今、一定程度オスプレイは認めているという言い方ですが、最初と少し違うのではないですか。

**○謝花喜一郎知事公室長** オスプレイを一定程度認めているということではなく、在沖米軍基地は一定程度必要で、あることはやむを得ないと。ただ、国土

のわずが0.6%に約70%の在沖米軍専用施設が集中しているのは余りにも過重だという意味の言葉を述べさせていただいたところでございます。

○**山川典二委員** ですから、そういった過重負担を含めて、国務省も当然ですが、当事者である、あるいは軍の最高意思決定機関を持っているペンタゴンになぜ行かないのですか。また訪米の予定があるようなので、ぜひ日程を組んで、強烈に抗議を申し入れて解決策を探るという方向性でやったほうがいいと思いますが、いかがですか。

○**謝花喜一郎知事公室長** 沖縄県の正確な実情として、嘉手納飛行場旧駐機場の使用やパラシュート降下訓練等については、英文化してワシントン事務所からホームページで発信するとともに、ペーパーを持って関係要路に回っているところでございます。今回の件につきましても、整理いたしまして、例えば抗議文等も含めて沖縄県の思いを要請することは必要かと考えております。

○**山川典二委員** 私もペンタゴンに行く機会が何回かありましたが、誰に会ってメッセージを伝えるかが大切なのです。今、ワシントン事務所の皆さんがどのレベルの人にそういう文書を出しているのか。その辺は把握されていますか。

○**謝花喜一郎知事公室長** これまでワシントン事務所が培ってまいりました方々は、調査官や補佐官も含めて大勢いらっしゃいますので、そういった方々と可能な限り面談しているという報告はいただいております。

○**山川典二委員** 細かくは聞きませんが、次、知事はペンタゴンに行かれますか。

○**金城典和参事兼基地対策課長** 先ほど、訪米において国防総省と面談した記憶はないと発言いたしましたが、訂正したいと思います。これまでの面談者ですが、国防総省関係では、ポスティ日本部長代行と平成29年1月から2月にかけての訪米の間に面談をしております。

○**山川典二委員** 国防総省日本部長代行というのは、係長クラスです。決裁権は何もありません。普通は、知事が行くと最低でも日本部長以上の人たちと面談するのです。そういう根回しもはっきりできなくて、ただの挨拶程度です。部長代行というのは挨拶対応の人員なのです。ですから、その程度では解決で

きないということを言いたいのです。もっとしっかりとやっていかないと、今のような議論が堂々めぐりで続いて解決になりません。ワシントン事務所もあるわけですし、予算もかけているのですから、その辺の人脈をしっかりとつけて少なくとも日本部長以上に会って、あるいは現職の軍事担当委員長ぐらいは会えます。そうしないと、現実的に突っ込んだ話ができないのです。そういう認識はないですか。

**○謝花喜一郎知事公室長** まず、日本部長以上の方にお会いすべきだろうという指摘は我々もしっかり受けとめさせていただいて、そのような方向で対応させていただきたいと思います。それから、沖縄の実情ということですが、先方の時間が十二分にとれば可能かもしれませんが、やはり限られた時間がございいますので、その中で何をどこまで話すのかということが極めて重要でございます。そういった中で日常的に、まずはワシントン事務所において沖縄の実情を発信するということが1つ。そして、より重要な案件についてはしっかりと効率的に情報を相手方に伝える工夫、努力をしなければならないと考えております。

**○山川典二委員** 次回、知事が訪米するときにはそういうレベルの人たちと会ってください。ぜひそういう努力をしてください。

**○謝花喜一郎知事公室長** 今、ワシントン事務所から政府要員等の状況も逐次入っておりますが、なかなか体制が整っていないという話もあります。そういった中で、これまで培われてきた方々との面談を通して情報を発信しているところですが、委員からの御指摘の件の必要性は我々も十分認識しておりますので、なるべくそういった上の方とお会いできるように努めてまいりたいと考えております。

**○仲宗根悟委員長** ほかに質疑はありませんか。  
末松文信委員。

**○末松文信委員** 先ほどから議論になっていますが、オスプレイが欠陥機かどうかについてお尋ねしたいと思います。これは試作段階から何年が経過していますか。

**○金城典和参事兼基地対策課長** 試作や生産初期の段階、1991年6月、また、

1992年2月、2000年4月と12月に4回墜落事故を起こしているようです。さらに、2010年4月にアフガニスタンで着陸事故により死傷者を出しております。それ以降、平成24年4月にはモロッコ、同年6月にはフロリダ、平成25年8月には米国、平成26年10月にはペルシャ湾、平成27年7月には米国ハワイ州でハードランディング、昨年12月に名護市東海岸で墜落事故を起こしている状況にあります。

○末松文信委員 私はそのことは聞いていなかったと思うのですが一開発段階から何年経過していますか。

○金城典和参事兼基地対策課長 オスプレイについてですが、1989年3月に試作機が初飛行となっております。それからすると28年経過しているものと理解しております。

○末松文信委員 四半世紀も開発してきて、これまでいろいろな事故があったにしても、改善に改善を重ねて、相当程度の安全性が確保されているのではないかと認識しているのですが、いかがですか。

○謝花喜一郎知事公室長 沖縄防衛局に照会したところ、政府が把握しているオスプレイの10万飛行時間当たりのクラスAの飛行事故の確率は、2004年の米会計年度を起算点とした場合、昨年9月末時点で2.62%となっております。問題は他機種との比較ですが、沖縄防衛局から他機種と比較する資料はないということで比較ができない状況でございます。ただ、原因がまだはっきりしていないので先ほども明解な答弁はしていませんが、いずれにしてもオスプレイについては国外でも墜落事故で30名、40名の方が亡くなっているということからすると、やはり沖縄県民としては、オスプレイが日常的に頭上を飛んでいるという状況は不安が払拭できない状況だと言わざるを得ないのではないかと考えております。

○末松文信委員 そこでお尋ねしたいのですが、去年、名護市安部に不時着した事故の原因については、空中給油の際の給油ホースがプロペラに接触して起きた事故と認識していますが、そのように理解していいですか。

○謝花喜一郎知事公室長 前回、オスプレイの飛行再開に当たって沖縄防衛局から説明を受けた際には、給油の際のホースが当たって損傷し、事故につなが

ったという報告を受けております。

○末松文信委員 それは外的要因で事故になったわけで、機種そのものに問題があったわけではないですね。

○謝花喜一郎知事公室長 その時点ではそういった報告を受けております。その後、さらに事故調査を続けるということでございまして、それを踏まえた上で我々は見解を述べる必要があるかと思っております。

○末松文信委員 今回のオーストラリアでの事故は、艦船への着艦の際の事故だと聞いておりますが、そのとおりですか。

○謝花喜一郎知事公室長 きのう、おとといの時点での沖縄防衛局からの説明では、着艦の際にぶつかって墜落したという報告を受けております。

○末松文信委員 その事故については、今、機種に問題があったのか、操縦に問題があったのか、明確になっておりませんが、どちらだと思えますか。

○謝花喜一郎知事公室長 この件について一昨日も確認したのですが、明確な回答をいただいておりますので、臆測をもった発言は控えさせていただきたいと思えます。

○末松文信委員 これまでの事故を見てみますと、操縦による事故がかなりあります。それが大事故、大惨事に発展して死亡者も大分出ていますが、練度や操縦の技術が足りないといったことが要因で墜落事故につながっているというのかなり見受けられます。そういった意味では、先ほど知事公室長がおっしゃっていた一定程度の基地が必要だという中で、これも一定程度の訓練も必要ではないかと思っております。ですから、事故を起こさないように練度をもっと高める必要があるのではないかと考えていますが、この件についてはどのように受けとめていますか。

○謝花喜一郎知事公室長 私がオスプレイを容認したような形で受けとめられているのであれば、前言を撤回し訂正させていただきたいのですが、オスプレイの配備は反対というのが県政の基本的なスタンスでございまして、今、事故が多いのは練度の問題ではないかということですが、欠陥がどうのこうのではな

く、オートローテーションなど、ほかのヘリとは違った構造で操縦技術の熟度が相当必要な機種ではないかと私なりに考えているところです。そういったことも含めて、沖縄県としてオスプレイの配備にはさまざまな懸念が払拭されないということがあって、県民を挙げてオスプレイの配備反対だということでございます。ですから、練度を上げれば事故がなくなるから、それは必要ではないかという御質疑に対しては、そもそもオスプレイは沖縄から撤退していただきたいというのが県政の立場でございます。

○末松文信委員 今の知事公室長のお話は矛盾していると思います。現実問題としてオスプレイが配備される、あるいは、いずれは自衛隊も配備を計画していて、一定程度の基地の存在を認めるという中では、当然としてオスプレイの駐機は認めるという話にはならないのですか。

○謝花喜一郎知事公室長 県はオスプレイの配備のお話があった時点から一貫して、オスプレイの配備は反対だということは明確に示しております。

○末松文信委員 反対はわかりますが、現実問題として反対して解決できる話ではないのではないのですか。

○謝花喜一郎知事公室長 実現できないから諦めているということではなく、主張し続けるということが1つです。もう一点は、実際問題としてオスプレイの配備撤回には日米両政府による相当の調整が必要だろうと考えますが、その間どうするかという話があったときに、オスプレイの県外、国外への移転を一前知事も12機程度の移転を求めたということがございます。加えて、今回の事故原因の十分な説明を受けていない、再発防止策も示されていない中では飛行を中止すべきであるという申し入れを行ったところでございます。

○末松文信委員 事故を起こすつもりで起こすわけではないので、万が一、こういう事故が発生したときには、おっしゃるように安全が確認されるまでは中止してほしいというのはもっともな話だと思います。ただ、撤回という話になると矛盾した話でいかななものかと思っておりますが、もう一度、お願いします。

○謝花喜一郎知事公室長 オスプレイについては、先ほども答弁させていただきましたが、建白書の趣旨に基づいて、県は一貫して配備撤回を求めています。この思いには変わりはありません。

○末松文信委員 これは言い続けることに意義があるのですか。

○謝花喜一郎知事公室長 言い続けることに意義があるということではなく、配備を撤回することに意義があると認識しております。

○末松文信委員 その実現の可能性はどのぐらいだと考えていますか。

○謝花喜一郎知事公室長 再三にわたって県民を挙げての運動を行ったにもかかわらず、配備され、現在もあるということについては極めて遺憾でありますし、県はこれからも配備反対、撤回を求めていくということでございます。

○末松文信委員 そういう話ばかりしては何の解決にもならないと思っ  
ていまして、一定程度の基地が必要というのであれば、それなりの考え方を示して、日米両政府とも議論していただきたいと申し添えて終わります。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

當間盛夫委員。

○當間盛夫委員 日本政府が何を言っても、今のアジアの情勢を含めて米軍の訓練云々ということが無視されているのかということもあるのですが、運用上必要なものを除くということをやった、言わなかったということがあるのですが、運用上必要なものというのはどういうものなのですか。

○謝花喜一郎知事公室長 運用上必要なものがどういったものかについては、日本政府からも米側からもないのですが、要は米側が運用上必要だと言え、  
實際上必要だとなされているのが実情ではないかと考えております。

○當間盛夫委員 現実も訓練をすると、何をしても運用上必要ということになるはずでしょうから、日本政府が何を言ってもまとまらないという状況がある  
と思います。去年を含めて、米軍の訓練は異常ですよ。北朝鮮のミサイルが  
発射されるというのが一我々も鈍感になってしまっているのか、グアムにどう  
こうと言われても、グアムよりは沖縄の基地のほうが近いとか、いろいろな思  
いがある中で、米軍の訓練の増加についてはどういう認識を持たれていますか。

○謝花喜一郎知事公室長 昨日も、ことしになって5度目の津堅島におけるパラシュート降下訓練がありました。地元うるま市も再三にわたって中止を要請したにもかかわらず強行されてしまいました。また、嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練も行われ、外来機もたび重なっていると。その背景には、やはりこういった国際情勢があるのではないかということは、誰しも思うところだと考えております。ただ余りにも沖縄県に米軍専用施設が集中しているがゆえに負担を実感しているのが実態だと考えております。米側に対しては、そういった国際情勢があるにしろ、県民に対する不安、その不安が不満につながるようなことについては、より謹んでもらえればという思いでいます。

○當間盛夫委員 県民の安全・安心、県民の命を守る部分での皆さんの基地対策の役割、知事公室長の役割があると思うのですが、今の話からすると、米軍基地がなくなればそういったものが払拭されるという思いでしょうか。

○謝花喜一郎知事公室長 基地があるがゆえの事件・事故がたび重なっているというこれまでの経験則からすると、やはり基地が少なくなればそういったものも減るだろうと考えております。

○當間盛夫委員 皆さんが言う一定程度の基地の配備の必要性とは矛盾するのではないですか。

○謝花喜一郎知事公室長 必要と認めていることではなく、我々は日米安全保障体制で一定程度の在日米軍の基地は容認していると。ただ、それが余りにも沖縄県において過重だということを申し上げているところでございます。沖縄の過重な基地負担をぜひ軽減していただきたいということが県政のスタンスでございます。

○當間盛夫委員 今、県が辺野古埋立やオスプレイの配備反対を主張することは県政の方針なので必要だと思いますが、皆さんは反対する以外に、米軍なり、日本政府なりとの交渉や協議はどういう状況にあると考えていますか。

○謝花喜一郎知事公室長 この件に関しましては、沖縄防衛局、在沖米国総領事館もでございます。在日米軍沖縄地域調整官や基地の司令官等、いろいろな方と意見交換をする中で、県民の思いはしっかりと伝え、これについてはしっかり配慮すべきであるということを伝えております。

○**當間盛夫委員** 先ほどアジア情勢の説明が全くないということもお話しされていたのですが、米軍との信頼関係もないのではないですか。

○**謝花喜一郎知事公室長** 沖縄県と米軍との信頼関係ではなく、このままの状態が続くと、米軍が沖縄県民からの信頼を失うのではないかと考えております。

○**當間盛夫委員** 皆さんはそれを待つということなのですか。県民感情がこうだから、県民のマグマが爆発しますということで、皆さんはただそれを盾にして全く解決方法も見出さない。ただ反対だけを主張する中で、だめだということと言い続けて交渉をするということなのですか。

○**謝花喜一郎知事公室長** 在沖米軍施設の安定的な運用には、地元の理解と協力が必要不可欠だと考えております。そういった中において、県側、そして地元住民や自治体の強い要望も顧みず、運用上の必要性を強調しての訓練が強行されるということについては、基地の安定的な使用・運用、ひいては日米安全保障体制にも大きな影響を与えるのではないかと考えておりました、そういったことを日本政府、在沖米軍もしっかり認識していただきたいと考えているところでございます。

○**當間盛夫委員** 知事が上京しているのかどうかわかりませんが、知事は今回の墜落の部分で日本政府側のどういう方々とお会いし、米国側のどういう人たちに会って抗議をしたのですか。

○**謝花喜一郎知事公室長** 知事は今回、平成30年度の国庫要請の関係で、市町村の方々、経済界の方々も伴っての要請行動を行っております。ですから、限られた時間の中でこの件について要望するという時間はなかなかとれないのではないかと考えております。ただ、来週以降、防衛大臣が来県する見込みとなっておりますので、その際にしっかりと県側の主張は知事から行うこととしております。

○**當間盛夫委員** 翁長知事の今一番のものは基地問題、辺野古新基地をつくらせない、沖縄県民の安全をいろいろな形で守るという部分での、日本政府と一番対峙しているのはこのことでしょうか、予算のことはお願いしに行つて、基地問題は二の次ということは納得いかないのではないかと思います。予算を蹴

飛ばしてでも沖縄の基地問題はこうあってくれというのが筋であって、予算のことで行ったから予算のことを話してお金をもらいに行くということでは一本来、予算も要らないから沖縄の基地はこういう形でやってくれという気構えが翁長知事には必要なのではないのでしょうか。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

(「質疑なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 質疑なしと認めます。

以上で、豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故についての質疑を終結いたします。

説明員の皆さん、大変御苦労さまでした。

休憩いたします。

(休憩中に、執行部退席)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

本委員会付議事件軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立に係る豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故に関する意見書及び同抗議決議を議員提出議案として提出することについてを議題に追加することについては、休憩中に御協議をお願いいたします。

意見の一致を見たときは、本件を議題に追加し、諮ることといたします。

休憩いたします。

(休憩中に、議題の追加について協議をした結果、追加することで意見の一致を見た。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故に関する意見書及び同抗議決議を議員提出議案として提出することについては、休憩中に御協議いたしましたとおり、議題に追加し、直ちに審査を行いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故に関する意見書及び同抗議決議を議員提出議案として提出することについてを議題といたします。

休憩いたします。

(休憩中に、意見書の提出について協議をした結果、沖縄・自民党会派から一旦持ち帰って検討したいとの申し出があり、各会派ともこれを了承した。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

本委員会付議事件軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立に係る豪州洋上における米軍MV22オスプレイ墜落事故に関する意見書及び同抗議決議を議員提出議案として提出することにつきましては、一旦持ち帰って検討したいとの意見がありますので、そのようにいたしたいと思えます。

以上で、議題は全て終了いたしました。

次回は、8月15日 火曜日 午前10時から委員会を開きます。

委員の皆さん、大変御苦勞さまでした。

本日の委員会は、これをもって散会いたします。

沖縄県議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

委員 長 仲宗根 悟